

「やりたいこといっぱい」 パラレルワーカーとして 来月には再スタート



合同会社「more」代表
工藤 愛さん

info@akita-more.co.jp
https://akita-more.co.jp/

【プロフィール】
1987年秋田市生まれ。介護福祉士であり二児の母。
2016年「あきたビジネスコンテスト2016グッドプラン賞」受賞。17年合同会社more設立。同年あきたの介護情報サイト【-more-】を立ち上げる

複数の仕事に母業、妻業
成長への刺激を得ながら

パラレルワーカーとして働く工藤さんは、合同会社moreの代表。2017(平成29)年に介護情報サイト「-more-」を立ち上げた。「-more-」は秋田市内の介護施設の情報や介護の豆知識などを紹介。家族が利用する介護施設を探している人たちや、介護初心者がつまずきやすい介護の疑問などを分かりやすくまとめている。

サイトを立ち上げたきっかけは、工藤さんが実際に介護現場で働いた際、介護情報の少なさに直面したことがあった。

「施設利用者さんのご家族に施設を選んで理由を聞いてみたら、自分で選んでたわけじゃないという答えが返ってきて驚きました。同時に、自分が利用する立場になったら、自分で選んだ施設にお世話になりたい、と強く思いました。また、介護する側もされる側も初めてのことには戸惑ってしまっていることが多く、介護に関する情報をもっと必要だと感じました」

そこで秋田市内の介護施設を取材して介護を実践する際の初歩的な情

報を集めた。「私は社会人になってから介護職を目指したので、素人目線がよく分かるんです。介護のプロの世界では当たり前言葉も、初めて聞く人にはイメージしにくいことが多いんです。だから小さな不安や疑問を一つずつ解消して、安心して介護に向き合ってもらいましょう」と工藤さん。

「-more-」を通して「日本一高齢化が進む秋田を、日本一高齢者が住みやすい街にしたい」と目を輝かせた。「-more-」を立ち上げてから、個人としてもカフェやテレワーク施設、1丁関連など介護以外の依頼も無い込んだ。工藤さんは、少しでも興味があれば積極的に引き受けてきたという。

「このお仕事も本当に楽しくて自分の成長につながりました。一見介護とは全く違う分野でもどこかで介護に結びつく場面があり、それまでの経験を生かしました」

「more」運営のほかにも仕事をもち、パラレルキャリアの道を行ってきた工藤さん。順風満帆のように見えて、実は心が悲鳴を上げ始めていた。

「自分では複数の仕事と母業、妻業をこなせていると思っていたけれど、やはり限界があったんですね。どんどん不安定になっていく私を見て、それまで私の行動をいつも肯定してくれていた夫が、「これ以上仕事を続けるのは賛成しない」と言ったんです。夫の言葉でわれに返ったという工藤さんは、仕事の契約を更新せず、いったん何もしない時期を過ごすことにしました。

「ただただテレビを見て、お菓子を食べて過ごしました。もちろん母業は休めず家事もしていました。仕事は何もしていませんでした」

休業中、唯一続けていたのは、ノートとペンを持って毎日自分の気持ちを書き連ねること。自分の内側の声に耳を傾けていくうちに、自分を苦しめていたのは自分自身だったことに気付いたという。

「何か一つの仕事に向き合う度に、自分で『今は〇〇屋さん』という看板をつけて無理矢理切り替えようとしていました。でも、実際にはうまく切り替えられていなくて、それがど

こが罪悪感のよつな形で自分にかかっていたんです」と振り返る。たどりついたのは、「メリハリをつけるけど、オンオフはつけない」ということ。在宅で仕事をすることが多いため、ただでさえ切り替えは難しい。そこで、あえて一つの業務の境界線を曖昧にすることで、自分自身にフレッシュャーをかけないようにしていくのだという。

「家事の中に仕事があって、仕事の中に家事がある、そんな曖昧な境界線で良いと思うんです。仕事で煮詰まったら洗濯物を少し畳んで戻ってくる、そんな風に、気持ちを張り過ぎずに取り組んでいこうかと思えます」と工藤さん。

1年間の休業を経て、来月からまたパラレルキャリアをスタートさせる。「やってみよう」といってはいあるんです。家族を優先しながら、自分でできる範囲で全力で向き合っていきたい。私のモットーは、もし明日死んでも天国の自分があつたらちゃんと笑い飛ばせるくらい、充実した毎日を過ごすこと。やりたいこと、できること、バランスをとりながら、パラレルワーカーとして再スタートを切るのが楽しみです。終始笑顔を決めやさない工藤さんの瞳は、未来への希望に満ちあふれていた。